

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：比々多保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：飯塚 裕子	定員（利用人数）： 120名
所在地：〒259-1104 伊勢原市坪ノ内80-1	
TEL：0463-93-1390	ホームページ： <a href="https://seiwa-fukushikai.com">https://seiwa-fukushikai.com</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1974年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人誠和福祉会	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 16名
専門職員	保育士 29名
施設・設備 の概要	保育室6部屋 トイレ、児童コミュニティルーム 一時保育室、ふれあいルーム他

③理念・基本方針

◇保育理念 児童福祉法に基づき、子ども一人ひとりを大切に、保護者とともに子ども達の健やかな成長発達を支える保育園。
◇保育の基本方針 ・人とのかかわりの中で、思いやりや自主性など自ら生きる力の基礎を養う。 ・様々な体験を通して、豊かな感受性を育て創造性の芽生えを養う。 ・保育園の機能を生かし、地域における子育て支援を積極的に進めていく等、社会的役割を果たす。
◇保育の目標 ・心も身体も元気な子ども ・意欲を持つ子ども ・自分で考えて行動できる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

○園舎は市の建物であるが、建物内は日当たりが良く、広々とした環境であり、天井からはオゾンが出る装置を備えている。各クラスも広く、クラスの前の多目的ホールも広々として、子どもたちは元気に活動している。2階の0～2歳クラスには床暖房があり、子どもたちは裸足で遊んでいる。保育士は、子どもの気持ちを受け入れ、「これをやっているからあとでね」など、職員側の都合で動かないよう留意し、一方的に保育士の気持ちを押し付けないことに注意して保育を行っている。
---

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年12月1日（契約日）～ 2024年2月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（2019年度）

## ⑥総評

- ◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
- 比々多保育園は、公私連携型保育所として、0～5歳の子ども120名の保育を行っている。園内には他法人が運営する地域の子育て支援「つどいの広場（ふれあいルーム）」や、児童コミュニティルーム（学童クラブ）もあり、地域の中の保育所として機能している。
- 子どもたちは広い園庭で、ボール遊びや砂場での遊び、フラフープ、縄跳び、バトミントン、羽子板など、好きなものを使って遊んでいる。園内には、絵本やブロック、ビーズなどを、子どもたちの手の届く所に置いている。絵本や図鑑も自由に読むことができるようにしている。園庭の砂場で、じっくり一人で穴を掘ったり山を作ったりしている子どもや、ゴールキーパーを自分たちで決めてサッカーを皆で楽しんだりしている子どもなど、子どもたちは思い思いの活動を行っている。
- 毎朝9時30分に、ミーティングを行い、子どもの状態を報告し合い、保育士間で共有している。また、月2回の連絡会議では、子どもの成長や困っていることなどを全職員で話し合い、子どもに寄り添いながら保育している。園が安心できる場所であることを、不安そうにしている子どもに優しく声掛けをして、子どもが安心できるよう対応している。
- 0歳児は、入園時は離乳食を提供し、這い這いをしている子どもがいたが、今は月齢も進み、離乳食も完了期になり、皆歩くことができるようになっている。歩行状態が不安定であるため、安全に気を付けながら、抱っこやおんぶをしたりして愛着関係を築いている。喃語（「あうあう」「んまんま」など赤ちゃん特有の言葉）にも応答しながら保育を行っている。
- 1～2歳児は、片言の言葉も聞き逃さないように気を付け、子どもの言いたいことを受け止めて、満足感を味わえるよう関わっている。靴下を自分で履きたい、パジャマを自分で着たいなど、自分でやろうとする気持ちを大切に環境を整えている。時間のかかる子どもには、保育士がじっくり対応して見守っている。
- 3歳児はほぼ自分のことは自分でできるようになり、友だちの力を借りながら、遊びが広がるようにしている。4歳児は他の子どもの気持ちがわかるような声掛けをしながら、ケンカなどに介入している。5歳児になると責任を持って当番活動を行い、皆の前で挨拶をしたり、積極的にタオルを集めたりしている。また、子ども同士のトラブルも、自分たちで解決ができるよう保育士が関わっている。
- 子どもたちの食育に力を入れている。子どもたちに食材に関心を持ってもらうよう、ピーマンやナス、ジャガイモなど、苗植えや水やり、収穫などを行い、給食で調理をしてもらって、自分たちの作ったものを食べて楽しんでいる。5歳児が三大栄養素のパネルを作り、食べ物が身体にどんな役割をするかを調べたりしている。また、ジャガイモで芋餅を作ったり、カレーを作ったりして、クッキングを楽しんでいる。月2～3回、おやつにおにぎりを提供し、子どもたちは自分のおにぎりを、ラップで包んで作っている。
- 卒園予定のクラスは、学校に行く準備として、自分の物の整理は自分で行うことなど、意識付けを行っている。1月頃より午睡時間を短くし、2月には午睡をなくして、小学校入学に向けて体力作りを行っている。小学1年生が保育園を訪問して、一緒に遊んでくれるなど、学校と連携している。卒園した子どもも多く、子どもたちは懐かしそうに園内で遊んでいる。また、「ようこそ年長さん」の招待を受けて、小学校を訪問し、机の中を見せてもらったり、歌を聞いたり、校内の見学をしたりしている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

1回目の結果をふまえ、保育の見直しなどを行い、よりよい園になるよう考えていった。  
今回の評価は、職員の励みになった。これからも保護者が安心して預けられる園・園児が毎日楽しく過せる園になるように一層の努力をまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり